

# 【効率アップ】ChatGPTを社内利用する方法8選！メリットや事例について解説

「ChatGPTを導入したけど使い方がわからない」

「利用するメリットってなに？」

「事例があれば参考にしたい」

そんなお悩みにお答えします。

最近、便利に利用できる話題の生成AI。テキスト作成やデータ分析など自動作成できるとあって、自社でも活用したい経営者や担当者も多いでしょう。

しかし、導入したものの使い方がわからないと悩んでいる企業も多いのも事実です。

そこで、この記事では以下の内容を解説していきます。

- ChatGPTを上手に社内利用する方法
- ChatGPTを社内利用するメリット
- ChatGPTを社内利用するデメリット
- 社内利用している企業の事例
- 社内でする際に注意すべきこと

この記事参考に、ChatGPTを活用できるよう目指してみてください。

## <h2>ChatGPTを上手に社内利用する方法8選</h2>

ChatGPTを上手に社内利用する方法は8つあります。それぞれについて詳しく解説していきます。

### <h3>1.文章作成・要約</h3>

文章作成や要約を作成できたり、元ある文章をわかりやすく要約したりできます。

なぜなら、優れた言語処理能力があるからです。

たとえば、以下の4つで自動作成が可能です。

- マニュアル
- 資料
- メール
- 議事録

ChatGPTに作成したい文章や、長文の要約を指示することで、数秒で書き出しを行えます。時間短縮や業務負担の低減につながります。

## <h3>2.会計データの分析</h3>

財務表などの会計を自動作成が可能です。

なぜなら、過去の財務データを学習しているからです。

たとえば、貸借対照表を作成する場合、条件や勘定科目、金額を指示すると自動で作成されます。指示する方法は以下のとおりです。

```
#命令
以下の条件を参考に貸借対照表を作成してください
#条件


- 勘定科目を資産、負債、純資産に分けてください
- 純資産は負債と列を揃えてください
- 金額は勘定科目の横に並べてください
- 合計金額は一番下に記載してください


#勘定科目
現金:1,000万円
支払手形:500万円
受取手形:700万円
資本金:5,000万円
```

的確に命令を行えば、財務諸表の作成も可能です。手間を省くことで業務効率アップにつながります。

## <h3>3.コーディングの作成</h3>

コーディングを活用したWebサイトの作成が可能です。

なぜなら、プログラミングの主要言語や、マークアップ言語を学習しているからです。

たとえば、Webサイトデザインの提案や、利用したい機能の設置方法をCSSで提示します。そのほかにも、以下のコーディングが活用できます。

- Webサイトのメニュー作成
- 既存コードの高速化
- コードの変換
- ルールの変更や一部のプログラム変更

Webサイトの見直しや、変更をする際に有効な手段なため、制作効率の向上も可能です。

### <h3>4.お問い合わせの対応</h3>

顧客や社員からのお問い合わせの対応も可能です。

なぜなら、質問の理解ができ、柔軟な返答も行える場合もあるからです。

たとえば、トラブルの対処法や、疑問解決など対応できる可能性があります。お問い合わせのツールと連携することで自動化も行えます。

24時間対応できれば、顧客や社員の満足度の向上が期待できるでしょう。

### <h3>5.情報収集</h3>

Web上に公開されている情報の収集も行えます。

なぜなら、ChatGPTは大規模なデータを学習しているからです。

たとえば、トヨタ自動車について聞くと以下の回答が提示されます。

- 会社概要
- 製品ラインナップ
- グローバル展開
- 技術面の強み

Googleで検索せずとも、ChatGPTが情報を集めてくれるため、リサーチの手間を省けます。

### <h3>6.アイデアや疑問の投げかけ(壁打ち)</h3>

企画のアイデアや、業務中の疑問に投げ方にも対応可能です。

たとえば、「自社のアピールができるイベントを開催したいのでよい案はありますか?」と投げかければ、複数の案を提案されます。

- お客様感謝デー
- 製品やサービスのデモンストレーション
- ワークショップやセミナー
- VRイベント

アイデアや疑問の解決を解消できない場合は、活用すれば短時間で解決もできるでしょう。

### <h3>7.SNSの活用</h3>

ChatGPTはSNSにも活用ができます。

たとえば、以下の6つの項目で生成できます。

- SNSカレンダー
- ハッシュタグ
- キャッチコピーやタイトル
- 返信のテンプレート
- 文章作成
- ストーリーやアイデア

自社でSNSを運用する場合でも、手間をかけることなく始められます。継続すればフォロワーも増え多くの方にアピールも可能です。

### <h3>8. 翻訳</h3>

外国語の翻訳にも活用できます。

たとえば、以下の言語です。

- 英語
- 中国語
- 韓国語
- スペイン語
- フランス語

50か国以上の言語に対応しています。外国語が苦手な方や、長文を翻訳するときに便利に利用できます。

## <h2>ChatGPTを社内利用するメリット3選</h2>

ChatGPTを活用できれば業務の負担を軽減できたり、効率化アップにつながります。利用するメリットについて3つ解説していきます。

### <h3>業務効率化の向上</h3>

ChatGPTは、業務効率化の向上も期待できます。

なぜなら、人の手で作業している時間を大幅に削減できるからです。

たとえば、文章やコーディング作成、情報収集する場合、膨大な時間やコストがかかります。

しかし、ChatGPTは数秒で完了できます。業務効率が大幅にアップできる点がメリットです。

### <h3>業務負担の改善</h3>

業務負担を改善することも可能です。

なぜなら、時間のかかる業務も対応できる場合もあるからです。

たとえば、以下の内容で負担を改善できます。

- データを表にまとめる
- Excel関数の作成
- プログラミングコード打ち
- 文章の要約
- 通訳

人の手で何時間もかかっていた作業が、わずか数分で終わることもできるでしょう。ChatGPTにできることが多ければ、業務負担の改善にもつながります。

### <h3>疑問点の改善</h3>

疑問点などの悩みを改善もできます。

なぜなら、Web上に公開されている同じような悩みから、適切な回答を提示できるからです。

たとえば、取引先に送るメールの書き方がわからないこともあるでしょう。ChatGPTに聞くことで適切な書き方について回答されます。

AIは、対人とやり取りしているような返答をもらえる点がメリットです。

## <h2>ChatGPTを社内利用するデメリット3選</h2>

ChatGPTは、問題点を改善しながらアップデートしています。利用する際は、理解する必要がある点について3つ解説していきます。

### <h3>情報が最新とは限らない</h3>

提示された情報が最新ではない場合があります。

なぜなら、データは2021年12月までの情報になるからです。2022年1月以降に更新された情報には対応できません。

2022年2月の出来事はインプットされていないため、提示できないと回答されます。

しかし、2021年12月までの情報は対応可能です。たとえば、「新型コロナウイルスによるパンデミックで、感染者数やワクチン接種の進行状況が報道されました」と情報提示できます。

最新情報は、自身で調べることが重要です。情報が最新か判断しながら活用しましょう。

### <h3>指示する側にスキルが必要</h3>

ChatGPTを利用するには、指示する側にスキルが必要です。

なぜなら、言語化されていない表現は、本来得たい情報を提供されない可能性があるからです。

たとえば、「研修カリキュラムを作成して」と指示しても求める回答は得られないでしょう。入力する際は以下のように命令すると詳細に回答されやすいです。

・条件や背景情報を具体的に指示する	・対象者 ・業界 ・職務 ・レベル ・目標値 ・教育期間
・出力項目とフォーマットを指示する	### カリキュラム {番号}: {タイトル} **学習目標**:{SMART基準で}{学ぶ重要性が伝える} **学習方法**:{座学、や簡潔なワーク内容} **学習内容**:{階層的な箇条書きで主要なトピックや概念をリストアップ}

ChatGPTを使いこなすには、具体的に指示することで、力を発揮します。そのため、指示する側に質問力を必要とする点がデメリットです。

### <h3>不適切な表現をする恐れ</h3>

ChatGPTは、不適切な表現をする恐れがあります。

なぜなら、日本語を完璧にマスターしていないからです。表現方法より、指示された言葉を集めて文章を作成します。

たとえば、東京タワーの高さを聞いた場合「大抵の場合、333メートルです」と不自然な回答をします。そのほかにも、存在しない商品や、建物を紹介するケースもあるでしょう。

AIは補助として活用し、最終チェックは人の目で確認することが重要です。

## <h2>社内利用している企業の事例</h2>

社内でChatGPTを導入している企業の事例を2社紹介します。

### <h3>東京都</h3>

東京都は、文章を生成する際に活用しています。

なぜなら、社員の業務を大きく削減するためです。

たとえば、以下の内容で利用しています。

- 説明会の冒頭あいさつ文の作成

- ホームページから事業内容を要約
- 企画のアイデアの抽出
- 企画・提案を海外用に翻訳

ChatGPTを活用したことで業務効率や質が向上や、時間短縮につながっています。日々の業務に追われている企業は導入すると解消が期待できるでしょう。

### <h3>サイバーエージェント</h3>

サイバーエージェントは、広告運用に活用しています。

なぜなら、オペレーションにかかる時間の削減をするためです。

AIを導入する前も効率化を目指し、体制の構築や仕組み化に取り組んでいました。しかし、広告配信や、運用の改善などに多くの手間がかかっていました。膨大な時間やコストが課題です。

そこでChatGPTを導入し、お問い合わせの自動回答や、キャッチコピーなどに活用しました。結果、30人の人件費削減に成功しています。

## <h2>社内利用する際に注意すべきこと</h2>

社内利用する際は情報漏洩や禁止事項などがあります。注意すべきことについて3つ解説していきます。

### <h3>情報漏洩の防止対策をする</h3>

ChatGPTを利用する際は、情報漏洩するリスクがあります。

なぜなら、入力したデータはインプットされるため、他の利用者に提供される可能性があるからです。

実際に、世界で10万件以上のアカウントを盗まれる被害が報告されています。また、サムスン電子では、社内会議の録音内容をテキスト化するために利用したところ、社外に漏洩したケースが3件発生しています。

社内で活用する際は、セキュリティ対策を強化し、利用用途や禁止事項についてもルールを定めることが重要です。

参照: [日経 Bloomberg](#)

### <h3>利用規約を確認する</h3>

社内で利用する際は、必ず利用規約を確認することが重要です。

なぜなら、情報漏洩につながるからです。

ChatGPTの禁止事項は以下になります。

- 差別的や暴力的な表現
- ハッキングを目的とした利用
- 個人情報の収集
- 企業の機密情報を開示
- 医療に関する情報提供

一部の規約ですが、違反すればアカウント停止やデータ削除、法的措置などの恐れがあります。社員に周知させることが重要です。

### <h3>社内のガイドラインを作成する</h3>

社内利用する際は、ガイドラインを作成する必要があります。

なぜなら、利用するにはリスクがあるからです。

たとえば、情報漏洩や著作権の侵害などが挙げられます。東京都では文章を生成する際に4つのルールを定めています。

1. 個人情報や機密性の高い情報は入力しない
2. 著作権保護の観点から十分に確認する
3. 回答の根拠を必ず人間が確認する
4. 回答の対象外に転用する際はその旨を明記する

参照: [東京都](#)

社員一人ひとりに周知させ、理解して利用することが重要です。

## <h2>まとめ</h2>

ChatGPTで社内利用する際は、9つのジャンルで活用ができます。大手企業や行政も導入しているため、幅広い分野でAIに業務を任せられます。

しかし、ChatGPTは虚偽や情報漏洩などのリスクもあるため、ルールを決めることや、人の目で確認することが重要です。事例を参考にぜひ自社でもさまざまな部署で使用してみてください。